

# M E E T

## Miyako Environmental Education Times

発行: 環境教育プロジェクト

平成25年(2013年)5月1日(水)

第66回の「環境教育ミーティング」は長岡京市の後援をいただき、長岡京市立公民館と共催で3月21日(木)に開催しました。

講師の柳沼宣裕さんには「被災地から考える・乙訓から考える」と題して話していただきました。2011年の夏、柳沼さんが研修生を連れて第1次隊から5次隊まで、気仙沼市にある地域災害ボランティアセンターに入られたこと、そこで見られたものは海岸部の被害のみならず、何キロも離れた場所まで流された車両・家屋、流された思い出の品々。そして塩水に浸かって使えなくなった田んぼとアスベスト。

災害の後には環境や生態系の課題も起こります。今回はそのようなことを小畑川とも組み合わせ考えて話していただきました。

### 参加者の感想

#### 1

神出鬼没で、連絡を取ろうにも連絡先は?、mailも音信不通でその生態にも謎多き大人物のイメージがある柳沼氏の活躍の一端を垣間見る事が出来、内容においても大変満足できる今回の環境教育ミーティングでした。当方も阪神大震災時には週末ごとに泊まりでボランティアに行き、その後も福井県のナホトカ号の原油流出や、舞鶴市の台風23号、去年の宇治市の集中豪雨などで復旧に当たった経験がありますが、その際に感じたのはボランティアの力

の大きさでした。大きな災害である程、一人ひとりのボランティアが、被災地に非常に大きな力や勇気を与えてくれます。柳沼氏も言われるように、それは環境問題についても同様です。私たちは今、災害への備えと環境問題という、避けては通れない大きな課題と向き合っています。

平成25年度以降も、環境の都会議づくりを始めとする市民環境団体の皆様のご活躍と、柳沼さんの奮闘を期待しております。



## 2

歴史と豊かな自然を併せ持つ長岡京市ならではの“まちごと博物館”構想は、地域力の向上には最善のアイデアと感動しました。

長岡京に住まわれて5年ほどの短期間に、専門とはいえここまで、まちのことを知りつくし行動するバイタリティとコーディネーター力には感服です。

今話題の人‘坂本竜馬を’思い浮かべました。

山あり里あり川ありのわが町長岡京の良さを私自身ももっと実感し、身近な友人に語っていった“まちごと博物館”を自覚した楽しいお話でした。

## 3

2011年3月11日の東日本大震災は日本中に大きな衝撃を与えました。その後防災に対する知識、意識、対策は格段に変化しています。

でも震災以前から長岡京の土地や川の状況や防災を説いていた柳沼さんのような方は貴重です。今後も、長岡京もふくめそこから中で広めていただき、私たちもお手伝いしたいと思います。

## 4

四国での被災地支援業務や東北大震災の災害ボランティア活動の体験などを興味深く聞かせていただいた。

あれだけの大災害となるとボランティアに駆けつ

けてくれる人もそれだけ多くなるが、大勢であるだけに人間関係や、中にはとんでもない人も混ざったりして「ボランティア性善説」というような単純な話で済まされなかったりするそうです。ペットの問題も悩ましい話でした。

地球上では自然災害は避けられないのであろうから、日頃から『地域コミュニティ』についてもよく考えて、皆で助け合える仕組みづくりや、問題意識を共有化して災害対策や予知・予防取組みのレベルアップをしていかなければいけないと感じた。

